

Photo Essay



忘れられた古代ローマの遺跡

ボルビリス (Volubilis) / モロッコ

撮影・文 / 日下部芳志

真っ青な空の下、空気は、汗が自覚できないくらいに乾燥していた。一面、黒と褐色の部分に色分けされたような平地。所々から立ち上るベルベル人達の焼畑の煙。その一帯の山間を抜けると、平野が山のかなたまで続いていて中央にボツンと緑に囲まれた遺跡らしき物が見えて来る。ボルビリスだ。

紀元前3世紀に、カルタゴの一都市として栄えたこの地は、小麦を中心とした穀物の大生産地であった故に、2～3世紀に、ローマ人が侵入し支配した。その後、多民族国家として18世紀まで栄え、モロッコ王国の勃興と、18世紀中頃の大地震により壊滅した。

カラカラ帝の凱旋門(写真)や、公会堂、神殿、浴場と様々な建物がその跡を残し、床には、狩りの図、鳥や動物、イルカ、タコ等の美しいモザイク画が数多く残されていた。

この地の夕日を眺める為にだけ訪れるヨーロッパの人々も多いと聞いた。